

JALOS ニュース

Japan Lubricating Oil Society

2012 1月号

平成 24 年 新年賀詞交換会

平成 24 年 1 月 13 日（金）午前 11 時 30 分から、東京・アルカディア市ヶ谷において潤滑油協会、全国石油工業協同組合、全国工作油剤工業組合、日本グリース協会及び全国オイルリサイクル協同組合の潤滑剤関連五団体の共催による新年賀詞交換会を開催致しました。

当日は、経済産業省資源エネルギー庁 資源・燃料部の安藤部長、中井治 衆議院予算委員会委員長を始め多数のご来賓の臨席を賜り、会員及び関係者総勢 450 余名の参加を得て、盛会のうちに執り行われました。

主催者を代表して、当協会の武藤会長が次のような内容の挨拶を致しました。

「皆様、新年明けましておめでとうございます。新年にあたり、潤滑剤等関連五団体を代表し、新年のご挨拶申し上げます。

東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。



左から武藤会長（潤滑油協会）、長谷川理事長（全国オイルリサイクル協同組合）、木村会長（日本グリース協会）、石川理事長（全国石油工業協同組合）、中野理事長（全国工作油剤工業組合）

目次

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 平成 24 年 新年賀詞交換会 | 4. 潤滑油需給統計 |
| 2. 会長年頭挨拶 | 5. 協会の動き |
| 3. お知らせ | 6. 今後の予定 |

社団法人 潤滑油協会
URL <http://www.jalos.or.jp/>

地球規模で何十年に一度といわれる大震災、津波それにより引き起こされた原子力の人災、これらは新たな年を迎えましてもその傷跡を大きく広げながら今年に引き継がれております。この傷をどのように修復し、新しい世界を構築していくことができるかというような新たな課題を背負わされスタートラインに立たされたような気がします。

我々の潤滑油に関しましても原油の産地では、一昨年来のアラブの春といったような長期独裁体制から新たな民主主義が構築されましたが、現状は引き続き混乱の日々であり、まだまだ不安定な大きな火種を抱えた地域ということがいえると思います。また、最近ホルムズ海峡の封鎖というような恐ろしい話も出てきております。

一方、留まることを忘れてしまったような円高のトレンドは続いており、昨年 76 円を超える水準に達するなど円高に新たな歴史を開いているような状況にあります。円高は、輸出を大きな柱としております我が国の経済、特に機械産業あるいは加工産業といった我々潤滑油の大きなユーザ分野に大きなダメージを与えており、このことが潤滑油の総需要の大きな減少要因であることは間違いありません。この円高の原因というものは単純に解明できるものではありませんが、大きな原因としては欧州の財政危機といったものがその一つであることは明らかであると思います。

世界のいろいろなところで様々な体制的なほころびが垣間見られるような時、地球規模でも洪水あるいは火山の噴火、大きな竜巻まで頻発しております。このような体制的な変化、地球そのものの活動に起因するようなことが身近に起こっておりますと、これまでのように経済的なサイクルからの変化として物事を判断できるような時代ではなくなっているということが言えます。個々の目の前にある現象に対して、人間的に力強く温かく対応していくといったようなことがとても大切な姿勢になるのではないかと考えております。

昨年の唯一の明るい話題となりましたなでしこジャパンの快挙もとても、不利な条件の中での不転の決意によって訓練を重ねてきた結果として輝かしい栄誉を手にすることができたと思えます。

潤滑油業界は、経済規模がとても小さい業界であります。全産業、全人間生活に徹底的に影響を及ぼすものです。この 2012 年という年が背負った課題がいかに判断が付きにくいものであっても、我々は潤滑油の役割を担う者として不利な条件にも敢然として挑み、的確な製品を安定的に需要家に提供していくという決意のもとにモノづくりの翼を広げ、次世代に向けて飛躍発展していけるように努めてまいります。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとりまして実り多き年でありますよう祈念いたしますと同時に我々五団体に対しましてご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。」



社団法人潤滑油協会 武藤会長

続いて、資源エネルギー庁 資源・燃料部の安藤部長より、次のような御祝辞を頂きました。

「皆様、明けましておめでとうございます。中井先生を始め多くの御来賓の方がおられる中、大変せんえつでございますが一言挨拶を申し上げます。

昨年の東日本大震災で被災された方、お亡くなりになられた方に、改めましてお悔みとお見舞いを申し上げます。被災された地域の皆様方は当然のことながら、今日お集まりの皆様方におかれましても、昨年はずっと大変な1年だったと思います。現下の状況は武藤会長がお話になられたとおりで、なかなか厳しいものがあると思っております。

今日お集まりの五団体の皆様方は、日本の製造業のサプライチェーンを支えられており、復興に不可欠なオイルのリサイクルなども担っておられると承っております。被災地の皆様方が復興に頑張っておられるわけでございますので、五団体におかれましても元気のあふれる1年となるよう頑張ってくださいと共に、この場をお借りしまして、被災地に対しても少しでも明るい1年になっていただけるよう皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

また、イランをめぐる情勢等のお話しがございましたが、昨日もアメリカの財務長官が訪日し、総理、安住大臣とも協議を行っております。私どもも微力ではございますが、元売りの皆様方と連携をさせて頂きながら備蓄制度の活用も含めまして、様々な頭の体操をさせていただいております。とにかく皆様方の事業に支障が生じないように、原油、石油製品の需給・確保には万全を期していきたいと改めて思っております。何卒このような状況の中で、皆様方が今年1年頑張ってお日本の製造業を支えて頂けるように、この場をお借りしまして改めてお願いを申し上げます。簡単ではございますが、本日お集まりの皆様方の御健勝、御発展をお祈りいたしまして、私の挨拶に代えさせていただきます。本日は本当におめでとうございます。」

その後、日本グリース協会の木村会長の音頭で乾杯、中井治議員のご祝辞、歓談後、全国オイルリサイクル協同組合の長谷川理事長による中締めで午後1時過ぎに盛況のうちに閉会しました。



資源エネルギー庁 資源・燃料部
安藤部長



会長年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。平素は潤滑油協会の事業に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

何十年に一度の地球規模の災害、人災に見舞われた昨年も、時の経過に乗って去り、新たな年を迎えております。しかし、昨年に起こり、残された傷跡は、大きく口を開けたまま今年に引き継がれております。今年は、その傷をいかに修復し、新たな世界を構築していけるか、まことに厳粛な課題を背負わされてスタートラインに立たされたものだと思います。

言うまでもなく 3.11 の東日本大震災の地震、津波の被害、そして更に遥か人類規模での課題にまで拡大させてしまった原子力の人災、また世界各地で頻発した洪水の被害は、人類の「想定外」をあざ笑わっている様でもあります。

一昨年から始まった「アラブの春」は、カダフィの殺害という「正義」で、ある区切りをつけたように見えますが、長期・独裁政権の後を民主主義で構築していこうとする夢ならば、その誕生から暴力の成果であり、これからも抗争、錯誤の交錯する苦難の道を思わざるを得ないことであります。

欧州で深刻化している財政破綻は、金融資本主義の極限化と腐敗が国家財政を深く侵食して、付けを国民に回し始めたようにも見えます。その結果は、国際的な更なる富の偏在を引き起こし、それはアラブの春を引き起こした原因と二重写しに見えて来るように思えます。わが国は一時期、規制緩和の美名の下に、それまで積み上げてきた福祉主義から、歯止めのない強い者勝ちの原始資本主義の方向に舵を切ったわけですが、それはまた弱者の完膚なきまでの負けを意味するものでもあるわけで、ウォール街がデモに占拠されたことは、実に象徴的な光景だったのではないのでしょうか。

さはさりながら、人知しか持ち得ない我々は、その限界の中でも、この地球の鼓動を想定内として、多分現在の到達点としては、他よりは優れていそうな民主主義、資本主義を繕いながら、進んでいかざるを得ないのでしょう。

潤滑油業界は、経済規模はきわめて小さいですが、その及ぼす影響は、全産業、全人間生活に決定的に及ぶものであります。この 2012 年の背負った課題が、いかに人知をあざ笑うようなものであっても、我々は潤滑油の役割を担う者として、知恵を駆使し、目前の小さな課題を、これまでの「想定外」にまで創造の翼を広げて、新たに始まる次世代への厳粛な課題として取り組んで行きたいと思っております。

お知らせ

○化審法 届出不要物質の追加に対する意見募集について（「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律第2条第2項各号又は第3項各号のいずれにも該当しないと認められる化学物質その他の同条第5項に規定する評価を行うことが必要と認められないものとして厚生労働大臣、経済産業大臣及び環境大臣が指定する化学物質を定める告示」に追加する化学物質に対する意見募集）

厚生労働省、経済産業省及び環境省では、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律第8条第1項第3号の規定に基づき、同法第2条第2項各号又は第3項各号のいずれにも該当しないと認められる化学物質その他の同条第5項に規定する評価を行うことが必要と認められないものとして厚生労働大臣、経済産業大臣及び環境大臣が指定する化学物質を定める告示に化学物質を追加することを予定しており、意見を募集しています。

意見募集期間（意見募集終了日）：平成24年2月10日（金）（必着）

資料入手方法：以下のURL（各ホームページ）に掲載

【電子政府総合窓口（e-Gov）】 <http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public>

【厚労省 HP】 <http://www.mhlw.go.jp/topics/index.html#iyaku>

【経済産業省 HP】 http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/index.html

【環境省 HP】 <http://www.env.go.jp/info/iken.html>

OGHS 導入の共通基盤としての新 JIS の制定について

この度、GHS による情報伝達を中小企業を含む事業者が円滑に対応できるよう従来の「JIS Z7250 MSDS の内容及び項目の順序」と「JIS Z7251 GHS に基づく化学物質の表示」の両規格が廃止され、「JIS Z7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）」として統合改変されることが決定されましたのでお知らせいたします。

この規格は、GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法について標準化を行い、化学品の生産及び使用に際し、利便性を高めより一層の安全確保を図るために制定するものです。

詳細は以下の URL（日本工業標準調査会ホームページ）をご覧ください。

<http://www.jisc.go.jp/app/pager?id=73034>

○2010 年度（平成 22 年度）の温室効果ガス排出量（速報値）について

この度、環境省より 2010 年度（平成 22 年度）の温室効果ガス排出量（速報値）がとりまとめられましたのでお知らせいたします。

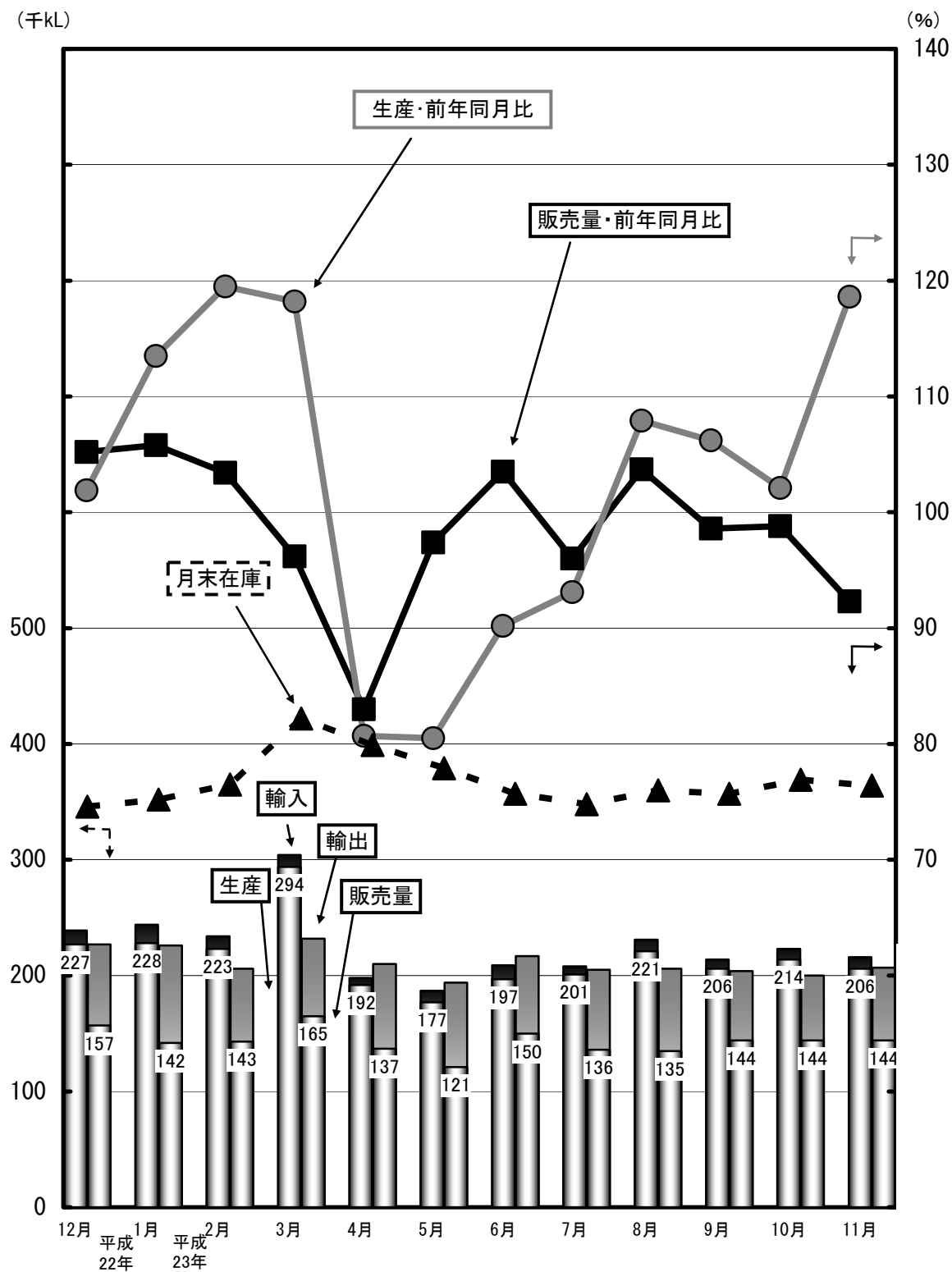
2010 年度の温室効果ガスの総排出量（速報値）は、12 億 5,600 万トンでした。これは、京都議定書の規定による基準年（CO₂、CH₄、N₂O は 1990 年度、HFCs、PFCs、SF₆ は 1995 年度）の総排出量と比べると、0.4%の減少となっています。2009 年度の総排出量と比べると、産業部門をはじめとする各部門の二酸化炭素排出量が増加したことなどにより、3.9%増加しています。2009 年度と比べて排出量が増加した原因としては、2008 年に発生したリーマンショック後の景気後退からの回復の中で、製造業等の活動量の増加に伴い産業部門からの排出量が増えたこと、猛暑厳冬により電力消費が増加したことなどが挙げられています。

詳細は以下の URL（環境省ホームページ）をご覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=14564>

潤滑油需給統計

11月の生産量は206千kLで前年同月比で18.6%上回り、販売量は144千kLで7.7%下回った。



出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報（注：棒グラフ上段の数字は生産量、下段の数字は販売量）

潤滑油需給統計（時系列表）

（単位：kL）

年 月	生産 Production	輸入 Import	国内向販売 Domestic sales	輸出 Export	在庫 Inventory	生産部門 Production division		販売部門 (製造業者・輸入業者) Sale section (Manufacturers and importers)
平成20年	2,636,357	75,751	1,888,509	628,366	402,326	214,700	187,626	
21	2,242,060	86,409	1,586,824	665,326	358,204	194,419	163,785	
22	2,537,485	110,609	1,756,400	753,598	346,089	182,877	163,212	
平成21年度	2,434,351	100,279	1,680,913	771,786	341,100	179,429	161,671	
22	2,646,180	117,292	1,762,495	768,345	422,075	248,090	173,985	
平成22年7～9月	614,417	22,055	418,517	175,804	360,466	189,989	170,477	
10～12	610,342	33,811	458,699	161,065	346,089	182,877	163,212	
平成23年1～3月	744,905	36,768	450,879	214,451	422,075	248,090	173,985	
4～6	566,422	28,414	408,041	212,223	357,172	190,111	167,061	
7～9	627,878	25,791	415,636	199,500	356,968	194,860	162,108	
平成22年 9月	193,775	4,981	146,513	41,938	360,466	189,989	170,477	
10	209,730	10,495	145,623	39,712	381,488	211,834	169,654	
11	173,793	11,669	155,820	51,294	346,761	177,831	168,930	
12	226,819	11,647	157,256	70,059	346,089	182,877	163,212	
平成23年 1月	228,145	15,655	142,112	84,247	351,899	177,749	174,150	
2	223,005	10,682	143,284	63,146	364,565	188,583	175,982	
3	293,755	10,431	165,483	67,058	422,075	248,090	173,985	
4	191,602	6,350	137,033	72,902	399,046	224,966	174,080	
5	177,340	10,463	121,477	72,505	378,623	209,336	169,287	
6	197,480	11,601	149,531	66,816	357,172	190,111	167,061	
7	200,882	7,081	135,832	68,597	348,096	184,820	163,276	
8	221,141	10,297	135,398	70,969	360,164	195,801	164,363	
9	205,855	8,413	144,406	59,934	356,968	194,860	162,108	
10	214,138	9,187	143,864	56,091	368,624	205,197	163,427	
平成23年 11月	206,161	9,551	143,825	62,990	364,095	204,876	159,219	
前年同月比 (%)	118.6	81.8	92.3	122.8	105.0	115.2	94.3	

出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報

協会の動き

○潤滑油基油（高度精製基油）GHS 分類・MSDS 説明会

12 月 21 日（水）にアルカディア市ヶ谷において、石油連盟・潤滑油基油 MSDS ワーキンググループの協力を得て、潤滑油関連団体関係者を対象にした、潤滑油基油（高度精製基油）の GHS 分類、並びに MSDS の説明会を当協会主催で開催しました。当日は、当協会、全国石油工業協同組合、全国工作油剤工業組合、及び日本グリース協会の各団体より関係者 90 余名が参加しました。



○ISO 資格制度委員会に参画

12 月 22 日（木）に一般社団法人 日本機械学会 会議室で開催された、(社)日本トライボロジー学会主催による「ISO 資格制度委員会」に参画しました。

○ISO 機械状態監視技術者資格委員会に参画

1 月 12 日（木）に関西大学 東京センターで開催された、一般社団法人 日本機械学会主催による「ISO 機械状態監視技術者資格委員会」に参画しました。

○賀詞交換会

1 月 13 日（金）にアルカディア市ヶ谷において、当協会と全国石油工業協同組合、全国工作油剤工業組合、日本グリース協会及び全国オイルリサイクル協同組合合同による「平成 24 年 新年賀詞交換会」を開催しました。詳細は前掲。

※詳細につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

今後の予定

○JALOS 講習会

「体験コース・油中異物分析と診断事例」

1 月 19 日, 20 日 JALOS 技術センター

○保安防災研修会（神戸）

2 月 3 日 講習会：神戸国際会館 802,803 会議室

見 学：人と防災未来センター

○理事会

3 月 28 日 アルカディア市ヶ谷

禁無断転載

発行日 平成 24 年 1 月 21 日

発行所 社団法人 潤滑油協会

〒273-0015

千葉県船橋市日の出 2-16-1

TEL 047-433-5181（代表）

FAX 047-431-9579

印刷所 株式会社みつわ